

第35回
ベルリン国際映画祭
国際評論家連盟賞受賞

第26回
ブルーボン賞
最優秀作品賞

第12回
日本映画ペンクラブ賞
日本映画第1位

第38回
毎日映画コンクール
日本映画優秀作品賞

1985年
ロンドン国際映画祭
招待作品 作品賞

1985年
シドニー国際映画祭
招待作品 作品賞

1985年
モントリオール映画祭
招待作品 批評家協会賞

君は知っているか
敗戦の虚脱と混乱を、そして平和到来の歓喜を
昭和から平成を超え、令和に問いかけてくる、
何を裁き、何が裁かれなかったのかを

監督 小林正樹 音楽 武満徹 ナレーター 佐藤慶

東京裁判

4K デジタルリマスター版

総プロデューサー：尾形清吉、須藤 博 エグゼクティブプロデューサー：杉山捷三(講談社)
プロデューサー：荒木正也(博報堂)、安武 隆
原案：桶垣 俊 脚本：小林正樹、小笠原 清(CINEA-1)
編集：浦岡敬一(CINEA-1) 編集助手：津本悦子、吉岡 聡、佐藤康雄
録音：西崎英雄(CINEA-1) 録音助手：浦田和治 音響効果：本間 明 効果助手：安藤邦男
資料撮影：奥村祐治(CINEA-1) 撮影助手：北村徳男、瓜生敏彦 ネグ編集：南とめ
タイトル美術：日映美術 現像：東洋現像所 録音：アオイスタジオ 協力：博報堂
史実考査：一橋大学教授 磯谷千博(現代史)、神戸大学教授 安藤仁介(国際法) 翻訳監修：山崎剛太郎
監督補佐：小笠原 清 助監督：戸井田克彦 製作進行：光森忠勝
ナレーター：佐藤 慶 音楽：武満 徹 指揮：田中信昭 演奏：東京コンサート
監督：小林正樹

デジタルリマスター監修：小笠原 清、杉山捷三
企画・製作・提供：講談社 配給：太秦 協力：芸遊会
©講談社 2018 1983 | 日本 | モノクロ | DCP | 5.0ch | 277分 |

INTERNATIONAL MILITARY TRIBUNAL FOR THE FAR EAST

誰が、この戦争を引き起こしたのか 日本映画史上に残るドキュメンタリーの傑作、 至高の4時間37分が鮮やかに蘇る

昭和から平成そして令和 新たな時代の幕開けに、現代の日本と世界が浮かびあがる
1945年8月に降伏した日本の戦後の運命を決定づけた極東国際軍事裁判の全貌を描く

アメリカ国防総省が撮影していた50万フィートに及ぶ膨大な裁判記録のフィルムをもとに、『壁あつき部屋』(56)や『人間の条件』シリーズ(59～61)などで戦争の非を訴えた、反骨の名匠・小林正樹監督が5年の歳月をかけて編集、制作した。客観的視点と多角的分析を施しながら「時代の証言者」としての“映画”を完成させたのである。83年に公開され、単に裁判の記録といった域を越え、日本の軍国主義の歩みと激動の世界情勢を照らし合わせながら、戦後38年当時の日本人に人類がもたらす最大の愚行「戦争」の本質を巧みに訴え得た本作は、第35回ベルリン国際映画祭国際批評家連盟賞をはじめ国の内外で絶賛された。

巨匠、小林正樹が遺したかった戦後日本への重い問いかけ 8月15日 昭和天皇の玉音放送詔書全文を完全字幕化

初公開から36年、故小林正樹監督に代わり、脚本・監督補の小笠原清とエグゼクティブプロデューサー杉山捷三の全面協力のもとで完成した4Kフィルムスキャン&2K修復デジタルリマスター版。音響もブラッシュアップされ、特に昭和天皇の玉音放送のシーンでは詔書全文の完全字幕化も実現。鮮明な画像と音響がもたらすリアルな臨場感とともに甦った本作は、再び「戦争と平和」なる言葉の重みとともに、昭和から平成そして令和へと時代が移り変わっても戦争がもたらした負の遺産を改めて観る者に問いかける。

いま歴史の瞬間に立ち会う 誰もが法廷に立ち会っているかのような生々しい臨場感と緊迫感

1945年日本はポツダム宣言を受諾し、8月15日に全面降伏の旨を国民に伝えた。戦後の日本を統治する連合国軍最高司令官マッカーサー元帥は、戦争犯罪人の裁判を早急に開始するよう望み、1946年1月22日に極東国際軍事裁判所条例を公布した。通称“東京裁判”である。

満州事変に始まり、日中戦争の本格化や太平洋戦争に及ぶ17年8カ月の間、日本を支配した指導者の中から、太平洋戦争開戦時の首相・東條英機ら28名が訴追された。一方、国の内外から問われ、重要な争点となった天皇の戦争責任については、世界が東西両陣営に分かれつつあるなか米国政府の強い意志により回避の方向へと導かれていく。

同年5月3日より東京裁判は開廷。まずは「平和に対する罪」など55項目に及ぶ罪状が読み上げられるが、被告は全員無罪を主張した。検察側は日本軍の非道の数々を告発、弁護側は「戦争は国家の行為であり、個人責任は問えない」と異議申し立てするが、「個人を罰しなければ、国際犯罪を実効的に阻止できない」と、裁判所はこれを却下した。1948年11月12日、病死した被告などをのぞく25名のうち東條ら7名に絞首刑、他18名は終身禁刑刑もしくは有期刑が宣告が下された。

刮目すべき記録

「今後の世界平和のために」という美名のもと日本人たちを裁いた、その国々はそれまで何をして大国になり得たのか。その後少しでも世界を平和に導くことが出来たのか。欺瞞に満ちた裁判に憤りながら、では日本が歩むべき道筋とは、どんな形だったのだろう、と深く考えさせる記録。

鎖国を解き、国際社会に勇んで出た日本。一等国にまで登りつめ、そして崩壊する。その崩壊から新しい出発へ、東京裁判は節目にあたる「史実」である。この史実を理解することは、次世代が歴史に生きるということだ。

監督：小林正樹
音楽：武満徹
ナレーター：佐藤慶
企画・製作：講談社 配給：太秦
©講談社2018
1983 | 日本 | モノクロ | DCP | 5.0ch | 277分 |
公式HP：www.tokyosaiban2019.com
Twitter：@tokyosaiban2019

ちばてつや 漫画家

保阪正康 現代史研究家
ノンフィクション作家

8月25日(日)から
東京都写真美術館ホールにて
ムーブオーバー決定!

8月25日(日)～9月5日(木) 13:15より

[休映日：8月26日(月)、8月31日(土)、9月2日(月)] 途中休憩あり

恵比寿ガーデンプレイス内

03-3280-0099

www.topmuseum.jp

特別鑑賞券¥2,000絶賛発売中!
(当日一般¥2,500のところ)

劇場窓口でお買い求め頂くと、
特製オリジナルポストカード
プレゼント!!!

(一部劇場では取扱いがございません。)

